

千田明の歴史散歩道 琵琶湖疎水を訪ねて

「蹴上発電所と水力発電発祥の地記念碑」1890年(明治23年)琵琶湖第一疎水開通の翌年日本で初めて発電開始。出力160KWで蹴上インクラインの動力用と用いられ、のち1895年に七条から伏見油掛け間に開通した京都電気鉄道(後に回収され京都市電)に使用された。第2疎水が1912年完成にともない二期発電所が開業。現在、三期発電所が稼働、水車2台で約4500KWの発電をしている。



「疎水と京都市動物園(上野動物園に次ぎ日本で二番目に古い動物園)」



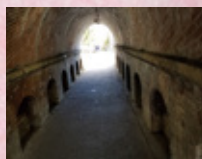
「インクラインと桜並木」



第二期蹴上発電所と第三期発電所の導水管。落差33.5m。



「琵琶湖疎水記念館」



【ねじりまんぼう】の内部。ねじりのあるトンネルという意味で、内壁レンガを螺旋状に積んで強度を保っている。



インクライン下部ねじりまんぼう。(南禅寺に向かう通)



大神宮橋より蹴上船溜まり方面を見る。



「日向大神宮鳥居」インクラインにショートカットできる。



「蹴上・山ノ内浄水場取水池入口」季節には、琵琶湖疎水船蹴上乗下船場。舟は定員14名、3月～6月、10月～11月に運航されている。



相撲場付近で西に屈折する疎水。



「二条橋とRohm京都都会館」



「市美術館と平安神宮大鳥居」



疎水と勤業館(みやこめっせ)で、北に屈折。



「インクラインと南禅寺船溜まりと蹴上発電所の排水路」



「蹴上浄水場」京都市民の水道の源。



大神宮橋よりインクライン方面を見る。舟を運搬する台車。



「南禅寺船溜まりと白川合流点」



「インクラインに併設されている蹴上発電所導水管」



「舟を運搬する台車と巻き取り金車」



「夷川発電所と水道局疎水事務所」

大津美穂崎から蹴上船溜まり、インクラインで南禅寺船溜まりまで開削するとともに、日本で初めての水力発電所発祥である蹴上発電所の電気を台車の動力源として使い、琵琶湖からの舟による水運を図り、さらに第二疎水の開通に伴い発電能力をあげました。明治22年火力発電で都おどり・力(天石義雄が通ったとして有名になった料亭、後世の作り話)に白熱電灯を点灯していたが、あまり高額なので普及しなかったところ、明治25年(1892)蹴上発電所の電気を利用して安価になり、市内に電灯が普及しました。さらに明治28年(1895)に、七条から伏見油掛まで日本最初の電車が営業されました。また、疎水を使った浄水場も併設され、井戸水に頼っていた京都市民に安全な飲料水が確保され、東京のように濁水による不安は現在も解消されています。

今回は、京都の天子様が東京に遷都したため、お公家様など人口の三分の二が減少し、経済的に疲弊した京都を蘇らせた「大プロジェクト」である琵琶湖疎水を訪ねることになりました。京都の3代目知事である北垣国道は、後の東大工学部卒業の23歳の田辺朔朗にまかせました。市民からは「こんど来た餓鬼極道」とまで皮肉られました。明治18年6月(1885)から明治23年(1890)3月まで、約5年の歳月を費やしました。



「インクラインと南禅寺船溜まり」



株式会社GNR 相談役 千田明 さん
2011年5月に電気工事業、電気通信工事業を業務とする「株式会社GNR」を設立。現在は退任し、相談役として在席。



墨染橋より墨染通りを見る。右折すると正面が墨染発電所。



墨染橋より墨染通りを見る。



疎水の関西電力墨染発電所より排水されたと思われる豪川。



「疎水事務所と伏見インクライン跡(左前方国道に沿った坂道)」



疎水の関西電力墨染発電所より、国道24号線を暗渠にして排水し、豪川につながる。

元の疎水にもどり、平安神宮の大鳥居を右手に西に向かうと勤業会館で北に流れが変わり、相撲場付近で西に変わります。さらに向かうと夷川発電所と水道局疎水事務所のある船溜まりがあり、さらに進むと京阪丸太町駅に近い川端橋で余剰水は鴨川へ。通常の流れは、暗渠で京阪七条まで地下化されている京阪電車の上流を流れています。七条南の塩小路橋で暗渠より排水され、京阪電車に沿って伏見稲荷・墨染を通過して伏見の船溜まりが国道24号線にぶつかるような形で終わります。ここには、疎水事務所と関西電力墨染発電所と伏見インクライン跡があり、濠川まで舟を運び、伏見港までの船便があったと思われます。なお、発電所の排水は、国道24号線の暗渠を経由して濠川に流れます。



「伏見港付近」



豪川の津知橋より豪川下流を見る。伏見港跡地に繋がる。



疎水鴨川排水口と鴨川に沿って暗渠で流す分流点。



夷川発電所1912年第二琵琶湖完成に伴い、1914年4月より発電、現在280KW常時出力、落差3.4mで発電している。(夷川は夷川通りに由来する)



疎水鴨川排水口と鴨川に沿って、地下化された京阪電車上部の暗渠へ流す分流点を鴨川対岸より撮影。



伏見稲荷の稲荷橋より上流を見る。



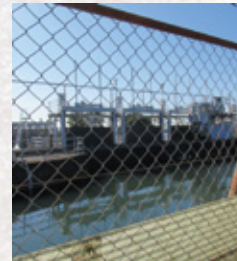
伏見稲荷の稲荷橋より下流を見る。



七条塩小路橋より下流を見る。



京阪電車上部の暗渠より、七条塩小路橋付近で排出され地上を流れる。



「関西電力墨染発電所取水口」発電能力2200KW、常時1100KW、落差14.3m



「疎水事務所と関西電力墨染発電所取水口」



伏見インクライン跡より水道局疎水事務所付近の墨染船溜まり。奈良街道より上下水道局疎水事務所伏見分室と疎水の墨染船溜まりを見る。



墨染橋より疎水上流を見る。

それでは、簡単に疎水の京都側の経路を案内したいと思います。京都地下鉄東西線蹴上駅番出口を出ると、国道1号線で国道に沿って大津方面に向かいます。右手に蹴上浄水場、左手に日向大神宮鳥居があり、シヨートカットで階段を登ると蹴上の船溜まりに行くことができますが、そのまま行くと斜めに戻る坂に出るので登っていくと蹴上浄水場の取水口の看板が見えます。

12月現在は閉まっていますが、春の桜の季節・秋の紅葉の季節には琵琶湖疎水船の乗り場でもあり、大津まで疎水を遊覧できます。ここは蹴上の船溜まりでもあり、大津から運ばれた荷物を舟ごと台車にのせ、南禅寺の船溜まりまで台車で運んだインクラインを歩くことができます。いずれも桜の季節は見事なもので、若い世代の遊園の地でもあります。南禅寺の船溜まりは、蹴上発電所の排水と二部の疎水と白川の合流点であり、白川横は日本で二番目に古い京都市動物園です。少し戻ると蹴上発電所を右手に琵琶湖疎水記念館が左手にあり、さらに進むとインクラインの下を潜り、南禅寺に向かうことができます。「ねじりまんぼう」のトンネルがあります。

地図で濠川の水脈はどこにあるのか疑問に思ったことをきっかけに今回訪ねることとなりましたが、今から130年もの前に大事業があり、京都も古きを守りながら新しきに挑戦するのに関心しながら筆を置きたいと思います。